

4 点検・評価及び進行管理を通じた教育委員会へのアドバイス

<三浦康之 委員長>

今年度は、点検評価に関わらせて頂いて五年目になります。今回は、二点申し上げたいがございます。

本年度も、歴史文化の関連事業が点検・評価対象事業として取り上げられ、藤澤浮世絵館の運営事業の点検・評価に関わりました。これは大変素晴らしい事業だと思います。来場者の推移も順調のようで、頻繁に展示物を入れ替えるなどの工夫もなされており、とてもよいと思います。これに限らず、歴史文化関係の事業というのは、子どもたちにとって、地元に対する帰属意識、愛着に昇華されていくものだと思います。できれば、市内の小中高校生など、子どもたち、若い人たちの目に触れるような工夫を継続して頂けたらと思います。

もう一つは図書館の件です。昨年度より、利用者数の目標に関する議論・指摘などして参りました。全国の図書館の利用状況を見ますと、つい数年前まではほぼ右肩上がりです。利用者数・貸出件数が増えてきたものの、ここ数年は横ばいまたは微減傾向が続いていることが、統計から見て取ることができます。昨年度の議論に基づき、その後貸出件数の目標を変更しているようですが、これは妥当な判断なのかなと思います。公共施設の場合、民間企業と違い、たんに売り上げが増えれば良いという単純なものではありませんので、現実実績が増えていないのであれば、目標そのものを変えるということは、大いにありうると思います。公共事業ですから、将来の見通しを誤ったまま投資を続けることは、過剰な投資を引きおこす原因ともなりかねませんので、その意味では現実に即した正しい決断だったと思います。

一方で、昨今、図書館の運営を民間企業に委託することによる問題が指摘される中、思い切った取り組みを行うことに対して慎重にならざるを得ない実情もあるかと思えます。図書館検討委員会からも見てとれるように、なかなか難しい舵取りをされていると感じています。平成22年と平成27年の登録者数と貸出数を比較しますと、全国の登録者が105.7%に対して藤沢市が、93.0%、全国の貸出件数が97.6%に対して藤沢市が90.4%となるようですので、実はあまり安穩としていて良い状況ではないと感じています。今後も、是非、市民に愛され利用される図書館づくりを推進して頂ければと思います。

最後になりますが、おのこの事業をよく考えられてしっかりと進められていると思いますので、今後とも藤沢市及び藤沢市の教育の発展のために、頑張ってくださいと思います。

<市村杏奈 副委員長>

点検評価に関わらせていただくのも、今年度で3回目となりました。藤沢市で取り組まれている事業をより深く知ることができて、自分自身の活動にもさらに深みが出て

いるように思います。わたしたち市民のために多くの事業を行っていただいていること、とても感謝しております。藤沢市 PTA 連絡協議会という団体に属し、その他にも学校や子どもたちを応援するべく保護者の会を立ち上げたり、青少年指導員として地域活動に参加したりする中で、活動をする目的について常に意識するようにしています。長年同じことに携わっていると、目的と手段を混同してしまうことがあるからです。大きな目指すべき目的に向かって活動をしていたのに、いつしか目的を見失い、手段が活動のメインとなっていると感ずることがあります。事業も目的のための手段の一つだと思います。藤沢市教育振興基本計画も、目指すべきものを再確認し、現状にあった事業を取り組んでいくものだと思いますが、長年の手段にこだわらずにより良い形に変えていただけたらと思います。また、しばしばボランティアの確保や人材不足などが課題となっていますが、わたしの周りには子どもの教育がひと段落し、何かの役に立ちたい、ボランティアをやってみたいという人がたくさんいます。地域や PTA 等の団体に所属するのは敷居が高いけど、参加できる日にやるもの、一つのことに特化したものならやってみたいという方も多くいます。そのような方々の意欲と、市が求めている人材がうまくマッチングすれば良いのではないかと思います。ボランティア募集や人材の確保についても、スムーズに運営するための手段と捉えるのではなく、目的達成のために一緒に目指していってもらう仲間として、目的や事業を市民に周知していくことが大事なのではないかと思います。わたしの方でも引き続き、市で行われているさまざまな素晴らしい取組みを、保護者をはじめ多くの方に知ってもらえるように、活動に取り入れていきたいと思います。これからも藤沢市民のため、藤沢の子どもたちのために、どうぞよろしく願いいたします。

< 藤井佳世 委員 >

今年度で 2 年目になりました。昨年の内容を念頭におきながら、どのような取り組みがなされたのかを知るために継続した質問をさせていただいたものもありました。点検・評価では、報告書の内容に関してより詳細な説明がなされることにより、普段の生活の中では市民が知ることのできないさまざまな取り組みやプロセスを知ることのできるよい機会という側面もあるのではないかと思います。私自身、知らなかったことや想像していなかった説明に何度も納得することがありました。どの事業も大切な事業だと感じましたが、これまでの蓄積をどのように活用するかによって、事業の効果が左右されるのではないかともしました。また、目的が明確な場合は方策を検討しやすいと思いますので、何のための事業なのかといった点がチームで共有されているかどうか、事業の効果を左右しているように思いました。いくつかの事業で課題・問題点としてあげられていたのが、人材の確保や連携に関することだったと思います。こうした課題に対応することは、同時に、学びを通じた地域づくりを進めることにつながっていると思います。人材の確保や連携は、地域づくりにつながっているという点が改めて確認される必要があるのではないかともしました。より多くの市民が少しでも携わることができ

るようになるための柔軟な制度設計が必要だと感じました。藤沢は広いので、各地域の特性を捉えつつ、事業の質を向上させていくための方策は地域ごとに異なるかもしれません。そのような細やかな学びの環をさらに実現されていくことを願っています。

< 渡邊美子 委員 >

今回初めて点検評価にかかわらせていただきましたが、地域協力者の立場で非常に新鮮な目で様々な事業を知ることとなりました。学校・家庭・地域連携推進事業の地域協力者会議にかかわるようになって17年目になりますが、ようやく「子どもを軸とした連携により、地域づくりおよび学校支援を図る」という事業目的に沿った活動をしていると胸を張って言えるようになってきた気がします。地域が学校と子どもたちを支えると同じように、市の教育委員会が実に様々に学校・教員・児童生徒を支える体制を整えています。時代が急速に変化し、教員の世代交代も進んでいます。時代に即した対応で学校を開かれたものにして、複雑化した諸問題を市全体で支えて、教員のみなさんが子どもたちとじっくりと向き合うことができる環境づくりをしていっていただきたいと思います。おそらく、双方の関係性をより深める、一方方向からではない働きかけが、学校・家庭・地域連携推進事業だけでなく行政と学校間でも重要になって来るのだらうと思いました。生涯学習の分野においては、一般市民としてたまたま地域の活動をするようになり、そこから広がったかわりから様々な分野の活動を知る機会を得た私ですが、それでも今回まで出会うことのなかった多くの事業を今回の点検評価で知ることになりました。仕事や子育てに日々忙しく暮らす人、現役を退き改めて地域に目を向け始めた人、子育てから卒業して心豊かになるものを求めている人、様々な立場のたくさんの方々がまだ出会えていない何かがその中にあるのかもしれません。地域活動を含め多くの展開する事業をさらに磨きをかけ、ぜひとも多くの方々に理解いただいて、より多くの豊かな人生を送るお仲間が増えればよいなと思います。そのような人たちのパワーが幸せな市・藤沢を育てるのだと思います。今回このような機会をいただいたことにより、日ごろの地域活動に取り組む気持ちも新たになりました。感謝申し上げます。